

ネパールにおける 水と衛生プロジェクト

2008-2012



国際ロータリー第 2750 地区
東京恵比寿ロータリークラブ
国際奉仕委員会



開通式に飾られた Thank You の旗

目 次

I 東京恵比寿ロータリークラブの 水と衛生 ネパール・プロジェクト

概要 2008-2012 (木村—波多野—石井—伊藤) 年度

II 初年度のネパール・プロジェクト (2009-10 年度)

バイオ・ガス・トイレ 85 基の設置と 2 カ所の簡易水道建設

東京城西 RC、東京西南 RC、東京八王子南 RC、
Lawndalt RC、東京恵比寿 RC

III 2 年目のネパール・プロジェクト (2010-11 年度)

1. 2 年目のバイオ・ガス・トイレ 50 基の設置

奈良大宮 RC、東京杉並 RC、東京恵比寿 RC

2. バイオ・ガス・トイレの完成式典

3. 9 カ所の簡易水道建設プロジェクト (ロータリー財団の補助金 Pjt.)

ネパール・パルパ RC、台北永福 RC、台北福友 RC、
東京国分寺 RC、東京蒲田 RC、東京恵比寿 RC

IV 3 年目のネパール・プロジェクト (2011-12 年度)

1. バイオ・ガス・トイレ 55 基の設置

2. 学校や幼児教室の建設と母親のための集会所の建設

V 4 年目以降 村民自立への道

母親達のためにマイクロ・ファイナンスへ援助

付録 1 バーミンガムに於ける 東京恵比寿アピール

I 東京恵比寿ロータリークラブの 水と衛生 ネパール・プロジェクト 概要 2008-2012 (木村—波多野—石井—伊藤) 年度

恵比寿ロータリークラブでは 2008 年 2 月、鈴木会員が初めてネパール・パルパ県を訪問し、現地で長らく活動されている垣見一雅氏（通称 OKBaji）とお会いし、現地の要望に添って「いったい何をなすべきか」の打ち合わせを行った。

この際、我々はネパールにおける「水と衛生」問題に初めて接し、その重要性を強く認識した。我々はこの認識を世界全体のロータリアンに理解して頂くため 2009 年 6 月にバーミンガムで開催されたロータリーの世界大会において「水と衛生問題」に関するワークショップを企画・提案し、「我々と共に貧困国においてこの水と衛生問題に取り組もう」と呼びかけて、それをバーミンガムで「恵比寿アピール」として世界に発信した。（付録 1）

その後恵比寿ロータリーはこのアピールを実行すべくネパールに於いて多くのプロジェクトを実施し、継続し、今日に至っている。

2008 年 2 月ネパール訪問時にはタンセンのパルパ・ロータリーとも会いその後のプロジェクトを共同で行う事を恵比寿ロータリー側から提案した。2010 年 2 月には大野、平松両会員が現地を訪問し、恵比寿ロータリー単独の 2 カ所の簡易水道建設と合計 85 カ所のバイオ・ガス・トイレの設置の 2 つのプロジェクトを実施し「水と衛生プロジェクト」が始まった。

2010 年 11 月には齊藤国際奉仕委員長と石井会長が現地を訪れ、初年度 2009-10 年度予算で建設された、数十カ所のバイオ・ガス・トイレと 2 カ所の簡易水道完成式典および 12 本の井戸の完成式に垣見氏と共に参加し、パルパ RC をも訪問し、2010-11 年度のプロジェクトについて打ち合わせを行った。

最初 2009 年の時点では、我々はまず小学校を建設した。しかし、児童がなかなか学校へ来られないことが判明した。理由は「水汲みや薪拾いのため」に時間を取られ、登校出来ない児童が多いことに気付かされた。これがバイオ・ガス・トイレの建設と水問題の解決に向かわせた大きな理由である。

すなわち子供達に学ぶための「時間」を提供しなければ、せっかく学校を作っても意味をなさない事を目の当たりにしたのである。

バイオ・ガス・トイレとは人糞と牛糞をタンクにため発酵するガスを炊事場に引き、ガスコンロを用いて炊事に利用する、と言う物であり、これにより「薪拾い」をしなくとも良い状態になるのである。また、簡易水道を村の中央に作れば遠くまで水汲みに行く必要がなくなるのである。こうして恵比寿ロータリーのバイオ・ガス・トイレ建設と簡易水道建設プロジェクトは車の両輪として開始された。

2 年目の 2010-11 年度は 50 基のバイオ・ガス・トイレと 9 カ所の簡易水道建設が行われた。簡易水道建設のプロジェクトはパルパ・ロータリーをホスト・クラブとして恵比寿ロータリーが国際パートナーになり R 財団にマッチング・グラントの申請が行われ実施された。2011 年 11 月大野国際奉仕委員長と平松、石井両会員が現地に赴いた。

3 年目 2011-12 年度は現地の強い要望に応じてさらに 55 基のバイオ・ガス・トイレの建設を行うと同時に 2 校の学校を建設し机などの備品も贈呈し教師の給与補助も実施した。

そして 4 年目の 2012-13 年度母親たちのためにマイクロ・ファイナンスを応援するために寄付を行った。

恵比寿ロータリークラブのネパール・プロジェクトは以下に示す多くのロータリークラブおよび関連団体のご協力によって支えられている。

ネパール在住 19 年の垣見一雅氏、ネパールパルパ・タンセン RC

国際ロータリー第 2750 地区 地区補助金 DDF、ロータリー財団 世界ファンド WF

東京国分寺 RC、東京杉並 RC、東京蒲田 RC、東京八王子南 RC

東京城西 RC、東京西南 RC 匿名のロータリアン数名 以上 RI 第 2750 地区

奈良大宮 RC、台北永福 RC、台北福友 RC、Lawndale RC

ここに心より深く感謝申し上げます。

年ごとの活動概要

1. 2008-09 年度

恵比寿 RC 有志によりジュレ村にスリヤ・キラン小学校を建設

バイオ・ガス・トイレ建設 15 基

バーミンガムの世界大会で「水と衛生」に関するワークショップの開催とブース展示

恵比寿 RC はバーミンガムでこの取り組む姿勢を [恵比寿アピール] として世界に発信

2. 2009-10 年度

ルクセバンジャン村とガルダハ村 Kang Kung の 2 カ所で簡易水道建設

バイオ・ガス・トイレ建設 70 基 共同プロジェクト

(Rampur、Khaliban、Silwa、inneraha、Phoksingkot、Gejaha、Galda、Darchha 村で建設)

太陽光パネルとランタン 4 セット

3. 2010-11 年度

グロサット村で 12 本の井戸建設

9 カ所 (Molagram、Belgari、Gabdada、Jhiridi、Kudapani、Darkesing、Kaywarapani

Chamke、Damar 村) で簡易水道建設 MG を頂いた共同プロジェクト

バイオ・ガス・トイレ建設 50 基 共同プロジェクト

4. 2012-13 年度

ジュレ村のスリヤ・キラン小学校の内装・外装工事

ドウワリ村のラクシミ・ラージ校 (1-9 年生) に机と椅子を寄贈、また教師の給与補助も実施。

ダブラ村に幼児教室+母親のための集会所を建設

バイオ・ガス・トイレ建設 55 基

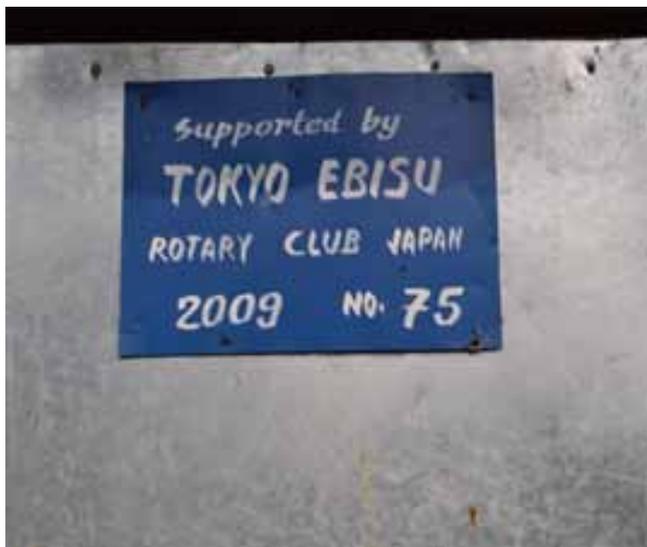
5. 2013-14 年度

現地の母親達が行っているマイクロ・ファイナンスへの寄付 30 万円

II 初年度のネパール・プロジェクト（2009-10 年度）

バイオ・ガス・トイレ 80 基の設置と 2 カ所の簡易水道建設

2010 年 11 月。齊藤、石井両会員でネパールを訪問し垣見氏と共に 2009-10 年度の河合国際奉仕委員長の基で実施された 2 カ所の簡易水道建設、バイオ・ガス・トイレ 85 基と 2011 年に実施された 12 本の井戸設置の開通式に参列する為とマッチンググラントを頂き建設予定の簡易水道建設に関連し、パルパ・ロータリーを訪問するため現地を訪れた。



2009-10 年度完成のバイオ・ガス・トイレ（写真は 2010 年 11 月撮影）

2009-10 年度までに設置されたバイオ・ガス・トイレ合計 85 基の内、恵比寿 RC 以外、以下の多くのクラブにご協力頂いた。ここに深く感謝致します。

東京城西 RC、東京西南 RC、東京八王子南 RC、Lawndalt Rotary Club



12 本の井戸を建設 しかし 2 本は水が出なかった。



日程は 2010 年 11 月 28 日カトマンズからガイドを付け、タンセンに入り奥地をジープで 4 日間まわり 12 月 2 日カトマンズへ戻った。訪問先の村の入り口には花や大きな葉で飾られた門が作られ、テープが張ってあり、テープカットの儀式の後、村へ入った。



現地では水が手に入った喜びから、3カ所でいずれも大歓迎を受けた。多くの村民が鐘やラッパ、太鼓の楽隊を先頭にパレードしながら式典会場まで行き、多くの方々の演説や建設に関与した方々の報告がなされた。なんと我々をおんぶしてくれた。手前は楽隊。



お釈迦様の生まれた場所 ルンビニ
1970年代に発見された、インドとの国境近く



夜遅くまで踊る



水道タンク完成



花輪を頂く



水が出た

Ⅲ 2年目のネパール・プロジェクト（2010-11年度）

この年度も多くのバイオ・ガス・トイレの建設と9カ所の簡易水道建設が実施された。

Ⅲ-1 2年目のバイオ・ガス・トイレ50基の設置

前年度までの85基に引き続き、ネパール・パルパ県においてバイオ・ガス・トイレの建設を行い、この年度は全部で50基設置された。

バイオ・ガス・トイレは北欧で開発されたガス発生器であるが、ネパールでも実用化されている。家畜の糞尿と人糞をタンクに溜め、発生するガスを引いて炊事に利用する。

このプロジェクトは現地に在住する垣見一雅氏の提案で2009年から開始された。

2010-11年度設置された50基の内訳を以下に示す。

東京恵比寿 RC	30 基
奈良大宮 RC	10 基
東京杉並 RC	2 基
東京八王子東 RC 所属の個人	2 基
その他	6 基

2年目のプロジェクトは2010年9月頃からスタートし、11月30日には現地の中心地タンセンに斉藤国際奉仕委員長と石井会長が訪問し垣見氏と打ち合わせを行った。

50基すべてが完成したのは2012年2月である。ほぼ全部が完成した時点の2011年11月20日完成式が行われた。垣見氏の立会で式典は行われたが、そこには恵比寿ロータリーからは2011-12年度の国際奉仕委員長大野と平松、石井両会員の3名が参加した。楽隊が音楽を奏でながら先導し、それに従い我々も会場の広場に入った。日本と同様多くの関係者のあいさつがあり、我々もスピーチをした。電気がないところであるが太陽電池を使ったマイクがあり皆が聞いた。

住民は大変喜んでおり、まだ、バイオ・ガス・トイレの設置希望者はこの地域だけでも200家族以上に上る。1基4万円で建設できるがロータリーからの補助は半分の2万円で、残りは政府からの補助金と自己負担である。建設作業はほとんどが受益者家族と近所の人たちで行う。このため故障しても自分たちで直せる。

バイオ・ガス・トイレができると単に衛生的に良くなるだけでなく、その主婦や子供は「薪拾い」に行かずに済む。学校を作っても子供が来ない、つまり子供が学校へ行けるためには彼らが学校に行くための時間を手に入れなければならないのである。バイオ・ガス・トイレができれば子供たちは学校に行けるのである。

東京恵比寿ロータリーでは子供たちに「学ぶための時間」を与えるため、バイオ・ガス・トイレの建設のみではなく、「水汲み」のための時間を得るため2010-11年度はマッチング・グラントを頂き9カ所で簡易水道建設も行った。

A. 奈良大宮ロータリークラブのバイオ・ガス・トイレ 10 基建設



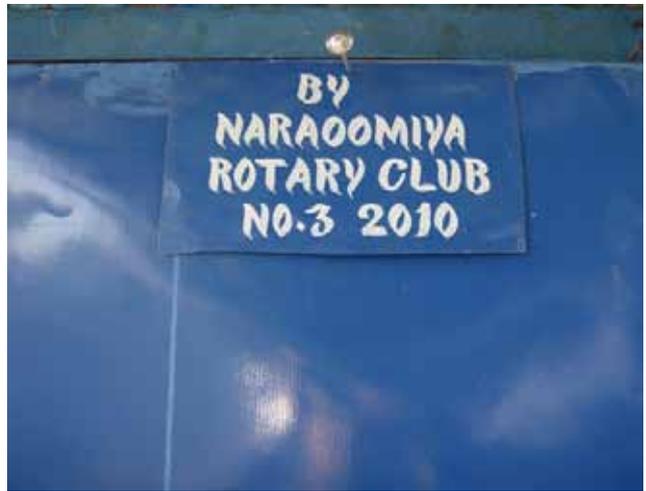
バイオ・ガス・トイレを作った民家とその家の主婦



牛小屋がありその糞を利用する



トイレをバックにその家の主婦と垣見氏



奈良大宮 RC のトイレ第 3 番

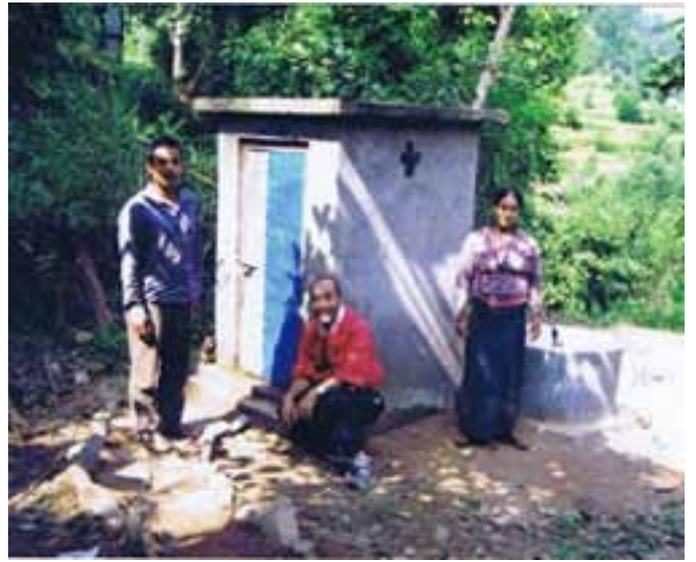
B. 東京恵比寿ロータリークラブのバイオ・ガス・トイレ この年度 30 基建設



トイレと牛糞投入口



ガスコンロと垣見氏
左のパイプからガスが出る、それを家の炊事場に引く



恵比寿 No.116

恵比寿 No.115

III-2 バイオ・ガス・トイレ完成式典 2011年11月20日



ソーラー・パネルは夜の家族団らんを実現した



式場の入り口で



式典では音楽を奏でて頂いた。楽隊は隣町から来ていた。



左から大野、垣見氏、石井、平松



大野国際奉仕委員長がテープ・カット



東京恵比寿ロータリークラブのNo.119のバイオ・ガス・トイレ



みんなにタオルをプレゼント、平松会員 オデコがぶつかったただけでした。

III-3 9カ所の簡易水道建設プロジェクト(ロータリー財団の補助金 Pjt.)

2010-11年度のプロジェクトはマッチンググラント(MG)を頂くため、年度の始まる前の2010年2月から準備を始め、垣見氏と打ち合わせを行い、2010年7月始めにMGの申請書を国際ロータリー第2750地区とR財団(TRF)に提出した。このプロジェクトは東パルパで「9カ所の簡易水道を建設する」と言うものである。その後TRF、ネパール、我々とのコミュニケーションがうまく行かず、TRFから現金が恵比寿ロータリーに振り込まれたのは、2011年3月末の事となった。入金後2011年4月1日から9カ所で平行に建設が進み、2012年3月1日9カ所全てが完成し、パルパRCのご協力を得て会計監査報告書を添付し、3月末TRFにMG#73588の報告書を提出した。

この間2011年11月末、大野、平松、石井の3名が現地へ赴き、垣見氏のご同行を得て3カ所の簡易水道の完成式典に参加したが、それ以外の6カ所の現地には恵比寿ロータリーの代理人として垣見氏にご参加頂いた。

垣見一雅氏には何から何までお世話になり心から感謝申し上げます。

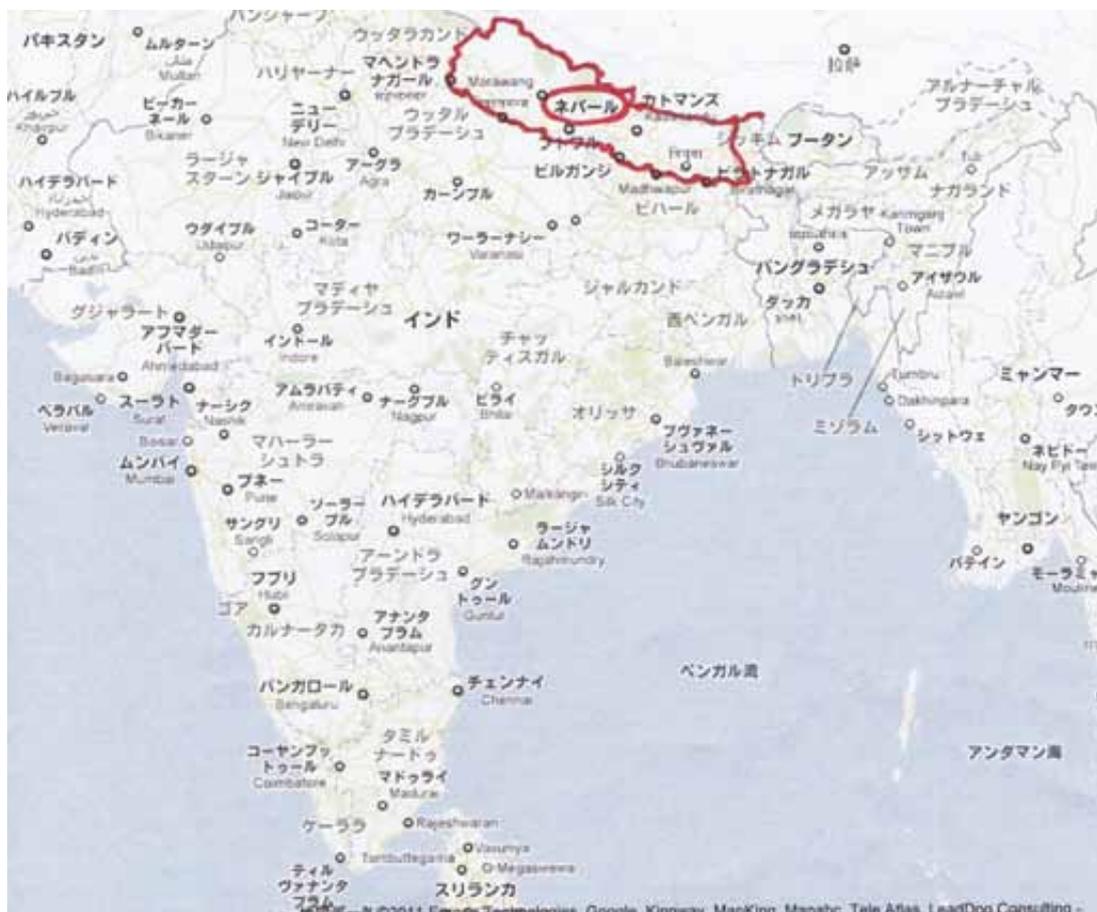
III-3-1 ネパールのどこに簡易水道を建設したか

ネパールへは東京からバンコック経由でカトマンズに入った。そこから飛行機を乗り換えバイワラへ、さらにそこからジープで2時間かけてタンセンに行く。タンセンはパルパ県の中心地で、ここにパルパ・タンセン・ロータリークラブがある。今回はこのクラブをホスト・クラブとして、東京恵比寿ロータリークラブが国際パートナーとなり

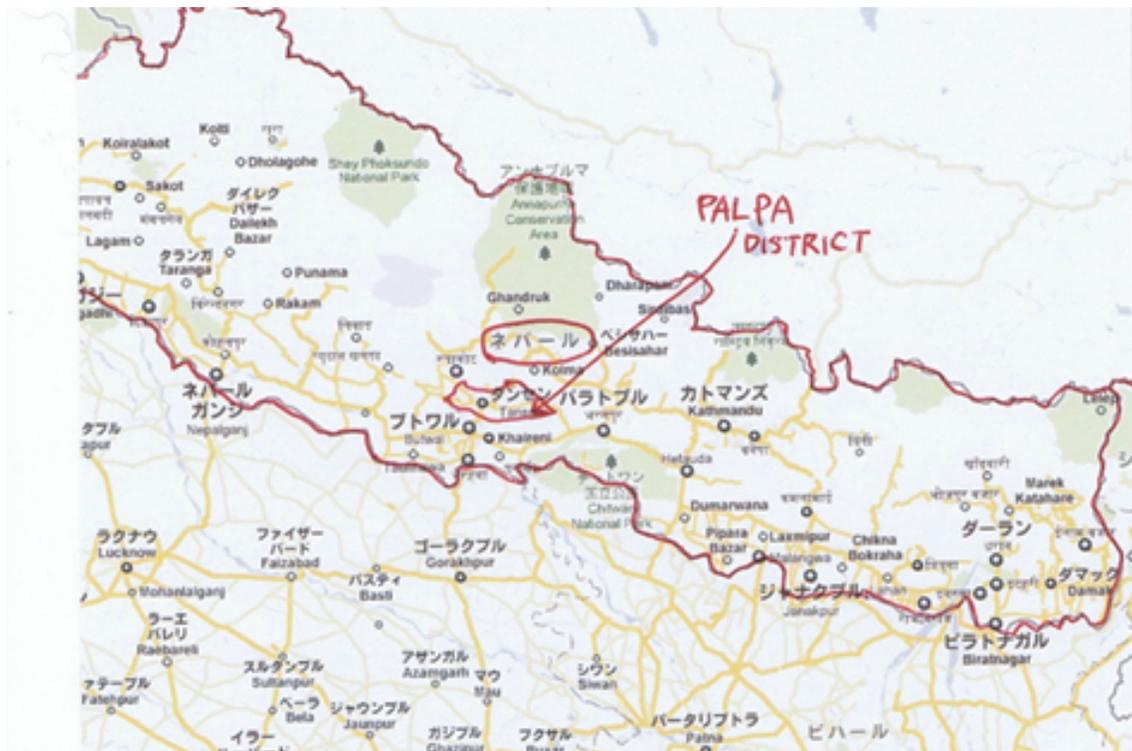
台北永福RC、台北福友RC、東京国分寺RC、東京蒲田RC

のご協力を得て、マッチング・グラント(MG)を頂き、東パルパで9カ所の簡易水道を建設した。建設場所はタンセンからさらにジープで4~6時間かけて入る山奥で、電気、井戸、水道はない。

今回作った簡易水道とは、上流の水場から1~2Km離れた村の中心まで高低差を利用してパイプで水を引き、コンクリートで作ったタンクに水を溜める。そこからさらに数カ所の蛇口の着いた水汲み場までパイプで水を引く。村民はここで水を得る。



ネパールの位置はインドの北



パルパ県はネパールの中央にある。パルパ県に行くにはカトマンズから飛行機でバイワラへ行きそこからジープで行く。バイワラ空港から近い所にお釈迦様の生まれた「ルンビニ」がある。

III-3-2 どの村で簡易水道を作ったか

以下の9カ所で簡易水道を作り、予算は合計 1,982k ネパール・ルピーである。

- | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| A. Molagram Bahadarpur-6 / Npr281k | B. Belgari Gandakot-6 / Npr099k | C. Gabdada Galdha-1 / Npr220k |
| D. Jhiridi Jirbass-7 / Npr300k | E. Kudapani Rakachuli-6 / Npr235k | F. Darkesing Jirhass-6 / Npr213k |
| G. Kaywarapani Galdha-8 / Npr175k | H. Chamke Gandakot-2 / Npr310k | i. Damar Mittaya-3 / Npr149k |
- 合計 Npr1,982k = 26,797USD



上 パルパ県の地図 東パルパの東はずれの山奥で建設した。

A～Iと東パルパの何処に建設したかは地図上にその位置を示してある（赤字）。

これらの場所はジープで行ける所もあるがバイクあるいは徒歩でしか行けない場所もある。

簡易水道の建設は技術指導を受けながら村民が実施したので、後のメンテナンスは自分達で行う事ができる。電気は使わず高低差を利用して水がくるので故障があってもすぐに直せる。

III-3-3 簡易水道の完成式典（2011.11月 -2012.3月）の写真



Jhiridi 村の完成式典で 1



Damar 村の水タンク上のプレート



大野、平松、石井と垣見氏



村の中に水が来た



Jhiridi 村の完成式典で 2



村人が運んできた石と砂の混ざった物を、ふるいにかけて石と砂に分ける



Damar 村の水道の蛇口 1



Damar 村の水道の蛇口 3



Damar 村の水道の蛇口 2



Kudapani 村の水道タンク上のプレート



Kaywarapani 村の水道タンク



Chamke 村の小学校横の水場 1



Jhiridi 村の水道タンク上のプレート



Gabdada 村のタンク上のプレート

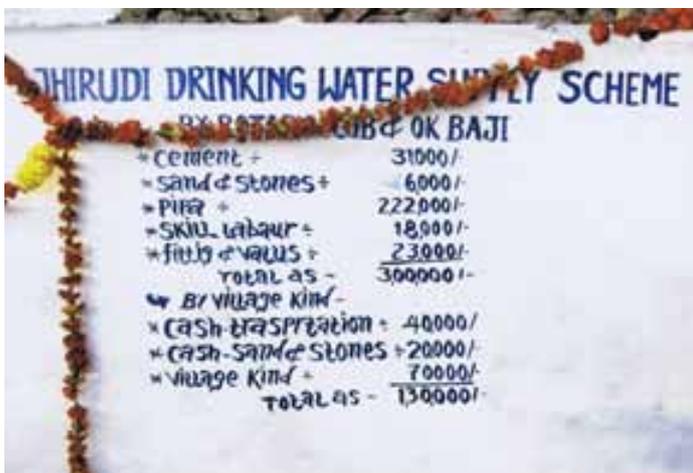
コンクリートで作られた水のタンクには石で作ったプレートを貼ったが、全て同じ文字が彫られている



大繁盛の水場



上流から村のタンクまで引かれるパイプ



Jhiridi 村のタンクに書かれている会計報告



今回のプロジェクトで打ち合わせ中のパルパR.C.の人達
(赤いシャツの人が 2010-11 年度パルパR.C.会長の
Mr.Uptal Kumar Bajracharya)

IV 3年目のネパール・プロジェクト（2010-11年度）

前年度までに簡易水道建設は合計11カ所で、井戸は12本掘った。そこでこの年度は水道建設が一段落したことを受け東パルパで集中的に、本来の目的であった学校建設や学校内の設備の充実に力を注ぐ事にした。ただし、バイオ・ガス・トイレのニーズはまだあるので、これは継続した。

IV-1 バイオ・ガス・トイレ50基の設置

IV-2 学校や幼児教室の建設と母親のための集会所の建設

2009年7月に垣見氏が日本に帰国されたとき恵比寿RCの有志は寄付を募って学校建設を垣見氏にお願いしたが、その校舎は2010年10月に完成した。場所は奥地のサハルコット郡ジュレ村で、名前はスリヤ・キラン小学校である。しかし予算が足りず内装、外装工事はまだで、机や椅子も無い状態であった。



2010年完成当時のスリヤ・キラン小学校

このころはちょうど円高でバイオ・ガス・トイレ用の予算が少し余ったのでその費用を内装・外装工事に当てたが、足りない。しかし、村人は自分達も負担すると言う事となり、内装・外装工事が完成した。



2011年内装・外装工事完了

これとは別に現場の要求により、ドウワリ村のラクシミ・ラージ校（1-9年生）に机、椅子などの備品を贈呈した。



下 さらにダブラ村に幼児教室+母親のための集会所が一つになった2階建ての建物を建設した。これは2012年4月完成。



2012年1月建設中の2階建ての幼児教室と母親達の集会所 下は2012年2月末の状態



V 4年目以降 村民自立への道

母親達のためにマイクロ・ファイナンスへ援助

既にバーミンガムでの東京恵比寿アピールから丸々3年が経過した。我々の行動は現地在住の垣見一雅氏のご支援で、ネパールの東パルパに於いて集中的に、積極的にしかも大規模にバイオ・ガス・トイレの建設と水の確保が実行された。これにより子供や母親達の学ぶための時間が僅かながらとはいえ、得られたと考えられる。ここでちょっと立ち止まる時期に来た、と我々は考えて居る。

そこで次の行動を起こす前に所信に返り次の次元を模索する必要があると考えた。そして我々は子供達と同様に時間の出来た母親達を強力にサポートしたい、と考え、4年目の2012-13年度は現地で根付き始めたマイクロ・ファイナンスを資金的に援助し、母親達に「より学べる機会」を提供し、さらに収入が得られる方向付けを実現した。

この試みは「現地の要望により何かを作って提供するプロセス」から、「自らが考え行動するプロセス」への転換である。「助けられる」から「自立する」への転換を我々は大いに期待したい。

付録 1 東京恵比寿アピール

東京恵比寿アピール

ロータリアンは、世界中で数多くの「水と衛生」プロジェクトを実行しています。この困難な問題に立ち向かうための努力が多くの人々によってなされています。しかしながら、国連ミレニアム宣言から 9 年を経て、世界のかかえる「水と衛生」の問題は依然として深刻です。

東京恵比寿ロータリー・クラブの「水と衛生」の問題への取り組みを振り返ると、この2年間の変化に驚かされます。二年前には、資金の援助を行うという受動的な取り組みに留まっていた。ロサンゼルスでの 2008 RI 国際大会を契機として会員がこの問題に能動的に取り組むことの重要性を認識しました。私たちは、この一年間に日本の数万人のロータリアンに「水と衛生」の問題の重要性を訴え、共にネパールにおけるプロジェクトを始めました。

もし世界中のロータリー・クラブに同じような変化が起これば、ロータリー・クラブは大きな成果へ向かって大きく前進することが出来ます。「水と衛生」の問題は地域ごとに異なるために、それに取り組むプロジェクトは、その取り組み方も解決の方法も、一様ではありません。ロータリアンはそれぞれの地域とのコミュニケーションを重ねることによってこれらのプロジェクトに最もよく取り組むことができます。

東京恵比寿ロータリー・クラブは、「水と衛生」の問題に取り組むために、世界のロータリアンに三つのことをアピールします。

第一に、世界の「水と衛生」の現状をここであらためて知るための行動を起こしましょう。「水と衛生」の問題は、皆が知っている問題ではありません。ロータリー・クラブの会員が「水と衛生」の問題をよく理解することができるように、この問題を伝えましょう。

第二に、「水と衛生」の問題をかかえる地域のロータリー・クラブと情報を交換し、それぞれのクラブに何ができるかを考えましょう。対象とする地域を訪問し、そこでの問題を理解し、地域に密着した取り組みをしましょう。これらは「水と衛生」の問題の永続的な解決を実現するために不可欠です。

そして第三に、「水と衛生」の問題の解決に包括的に取り組むために、RI が国際機関と提携するように求めましょう。RI は UNICEF のパートナーとして世界の福祉のために活動してきた長い歴史を持っています。大きな組織間の包括的な協力は、個別プロジェクトを効率的に統合し、「水と衛生」の問題の全世界にわたる解決へ発展させることが出来るでしょう。

「水と衛生」の問題に取り組むプロセスの中で、私たちロータリアンは、世界の相互理解と善意と平和を前進させるでしょう。これはロータリーの目的にある国際奉仕の理念の実現です。世界中の人々と共に進む努力が、それぞれの地域の人々に喜ばれ子供たちにも語り継がれるような成果を生むことを夢みて頑張りましょう。

2009 年 6 月 22 日
バーミンガムにて

TOKYO EBISU APPEAL

Rotarians are engaged in a large number of “Water and Sanitation” projects throughout the world, with enormous efforts being made by many people to cope with this difficult issue. Nevertheless, the “Water and Sanitation” problem of the world remains serious even nine years after the United Nations Millennium Declaration.

Looking back over the way how the Tokyo Ebisu Rotary Club has dealt with the “Water and Sanitation” issue in the past, one will be surprised by the changes that have occurred over the past two years. As recently as just two years ago, our involvement was passive, comprised of simply providing funds by way of donations. The 2008 Rotary International Convention in Los Angeles changed all this and inspired our Club members to recognize the importance of our playing an active role in dealing with this issue. Over the past year, we have proclaimed the importance of dealing with this “Water and Sanitation” problem to tens of thousands of Rotarians in Japan and we have commenced our project in Nepal.

If a similar change can take place in every Rotary Club around the world, Rotary Clubs should be able to make significant progress towards great accomplishments. Since the “Water and Sanitation” problem of each local community will differ, the projects to tackle the problem cannot be uniform in either resolution strategy or solution method. Rotarians are very well positioned to effectively carry out these projects by virtue of our diverse ability to communicate with the various respective local communities.

Tokyo Ebisu Rotary Club implores Rotarians from around the world to take the following three measures for the purpose of coping with the “Water and Sanitation” problem:

First, let us take action to create awareness again of the world’s present “Water and Sanitation” situation. The “Water and Sanitation” problem is **not** one known by all. Let us have all Rotarians well understand the “Water and Sanitation” issue.

Second, let us engage in information exchanges with the Rotary Clubs in the regions having “Water and Sanitation” problems, and look into what our respective Rotary Clubs can do. Let us visit the targeted problem regions, understand their problems, and engage in close joint efforts with them. Such steps are essential to achieving sustainable solutions for the “Water and Sanitation” problem.

And **third**, let us urge Rotary International to enter into collaboration with an international organization with a view to effecting a comprehensive strategy for solving the “Water and Sanitation” issue. Rotary International has a long history of acting together with UNICEF as its partner for the welfare of the world. Comprehensive collaboration between large and influential organizations will lead to effective consolidation of individual projects and to global success in resolving the “Water and Sanitation” issue.

In the process of our exerting of efforts to resolve the “Water and Sanitation” problem, we Rotarians will advance international understanding, goodwill and peace, thus realizing the Object of Rotary’s ideal of international service. Let us exert our efforts in cooperation with other people of the world, dreaming of such achievements as will be welcome by people of the respective regions and will be talked about to their children for generations to come.

June 22, 2009
In Birmingham